



～ 凡事徹底の実践を !! ～

2学期の期末テストも終わり、いよいよ1年の締めくくりの12月になりました。そこで、是非生徒のみなさんに考えてもらいたいことがあります。

期末テスト期間中は原則部活動も停止になり、浦高では当たり前になっている各教室での放課後勉強がありました。夜遅くまで勉強をしている様子はとても頼もしく「みんなよく頑張っているな」と感心していました。ところが「勉強しないなら帰んなさい」という主旨の校内放送が入り、どうということかと先生方に尋ねると“スマホをいじっている”“たむろしてスマホゲームをしている”挙げ句の果てには“廊下で大騒騒ぎをしている”等とても信じられない、耳を疑うような内容が報告されました。

また、テスト終了後の記念撮影で、服装容儀違反などがあると撮影に支障が出るため、色つきリップ等は厳に慎むようずっと以前から注意してきましたが、多数の生徒がイエローカードを切られたと報告がありました。とても気になるのは、注意をしたら“何が悪いの?”という表情があったということです。

そこで、生徒諸君へ是非お願いしたいのは、今一度まわりの状況を視野に入れ、自分の行為が“自己本位になっていないか”ということを考えてほしいと思います。浦添高校は生徒数約1,200名の大所帯でたくさんの個性や様々な考え方を持った人々の集団です。みんなが協力してはじめて学校としての秩序も守られてきたのです。



特に担任の先生方は生徒諸君を日頃から気にかけて、時には厳しく注意をし学校生活を支えています。校長として先生方がこのようなことで悩んでいる姿は見ていてとても辛いです。

今一度“凡事徹底”の実践にご協力ください!

校長

●受験は団体戦●

11月は本当に忙しかった。3年生の推薦入試等で面接練習が激しく行われた。全職員での対応になるが、特に3年担任は放課後何人も面接するという過酷な状況で、下校時刻ギリギリまで対応に追われていた。もちろん教頭先生や校長も面接官になった。

「志望理由」「学部・学科の特徴」「大学には入って何をしたいのか」「高校生活で頑張ったこと」「趣味・特技」など予想されるあらゆることを質問する。想定した質問に対する答えも準備しているが、いざ言葉にするととなると簡単ではない。おまけに緊張してうまくしゃべれないジレンマに襲われる。

中には思うようにいなくて泣き出してしまう3年生もいる。このプレッシャーは当事者にしか分からない部分かもしれない。進路が決まっていない生徒にとって今が一番苦しいときである。

受験は団体戦であるとはよく言われる。進路が決まった生徒もどうか未決定者に気を配り、最大の力が発揮できるよう環境を整えて欲しいと切に願う。

校長

*** 校長雑感 ***

お笑いが大好きで、先日行われた“M1グランプリ”は最高に面白かった。“霜降り明星”が優勝し1,000万円を獲得した。優勝の瞬間“せいやさん”が叫んだ言葉が「やったー!これで奨学金が返せる!!」である。彼は近畿大学に通っていた頃に相方から誘われてコンビを組んだそうだ。“まず奨学金を返そう”という発想は、彼のまじめな性格を如実に表している。

～～～ 時の言葉 ～～～

「本人が『スーパーボランティア』なんて全然思っていない。当たり前のことをしただけ」



尾島春夫 (スーパーボランティア)

「スーパーボランティア」で流行語大賞にノミネートされましたが受賞を辞退した尾島春夫さん。「(大賞を)取ったとしても普段通りの尾島春夫です」と言ったそうです。この言葉に尾島さんの信念が込められていると思います。79歳の尾島さん、私のあこがれの存在です。

校長

～ 社会人に学ぶ! ～

2年生の「総合的な学習の時間」で、今年度も同窓会の協力のもと「第一線で活躍する社会人に学ぶ」を開催しました。10名の同窓生を特別講師に招き、職業講話等様々な視点からお話をいただきました。その職種は“浦添市職員”“警察官”“医師”“保育士”“会社経営”“一級建築士”“通訳”“調理師”“パーソナルカラーアナリスト”及び“ボイスパーフォーマー”です。

浦高出身の先輩方は様々な分野で、まさに第一線で活躍しております。毎年ご協力をいただき感謝しています。生徒達はこれをヒントに自らの進路決定に役立てるはずです。2年生諸君の来たるべき“NEXT STAGE!”は?

校長